

中央義士会

「忠臣蔵」とともに1世紀



泉岳寺の大石内蔵助像＝東京・高輪

江戸時代から21世紀の今日まで、300年以上も日本人の心を揺さぶり続けている史実がある。それは赤穂義士だ。苦難を乗り越えて主君の仇を討ち、従容と切腹した大石内蔵助(おおいし・くらのすけ)ら。47人の義挙はたちまち江戸の庶民の喝采を浴び、芝居や講談などで広まった。現代でも名だたる作家が題材に取り上げ、映画、テレビドラマ、舞台などになったものは、枚挙にいとまがない。四十七士の功績を顕彰し、正しい史実を後世に伝

えようとしてきたのが、中央義士会だ。明治時代に発足し、その活動は実に1世紀に及ぶ。地道に史実を掘り起こして研究成果を発表し、毎年12月14日の討ち入りの日など節目の日には、義士の墓がある東京・高輪の泉岳寺で法要を営んでいる。日本人の心をとらえて放さないその魅力とは。第5代理事長の中島康夫さん(73)らに話をうかがった。

(神戸新聞東京支社編集部長 小野 秀明)

明治時代に発足

「忠臣蔵」と言う方が一般的にはなじみ深いですが、史実的には元禄赤穂事件と呼ばれる。どんな事件だったのか、おさらいしておこう。

江戸時代中期の元禄14（1701）年3月14日、江戸城・松之廊下で、赤穂藩主・浅野内匠頭が高家吉良上野介に切りつけた。内匠頭は即日切腹で、赤穂藩は取りつぶしとなったが、上野介はおとがめなした。幕府の処分に反発した赤穂藩の家老大石内蔵助ら家臣47人が浪人となりながら、元禄15年12月14日に吉良邸へ討ち入り、上野介の首を取る。その後大石らは切腹した。

一連の事件は、「太平の世の中に命を賭して忠義を貫いた」と大評判を呼び、人形浄瑠璃や歌舞伎、講談などの形で伝えられた。「仮名手本忠臣蔵」は、歌舞伎三大名作の一つとされ、上演すれば必ず客席は埋まったというほどの人気だったという。

だが、芝居などでは感動を高めるため盛り上げようと、どうしても史実とは違う創作部分が強調されるようになっていく。正しい忠臣蔵を伝えたいと作られたのが、中央義士会なのだ。

中央義士会を創立したのは、福本日南（1857～1921年）だ。福岡藩士だった日南は、明治維新後に新聞「日本」を創刊するなど言論人として活躍。



中央義士会を創設した福本日南

九州日報（後の西日本新聞）の社長や衆院議員にもなった。日南は忠臣蔵に関する文章を多数発表し、「元禄快挙

録」として出版した。できる限り事実に基づいて忠臣蔵の全体像を書いたこの本は、岩波文庫に収録されている。

日南が1908（明治41）年に福岡で開催した義士会が元になり、中央義士会が誕生した。以来約100年間、活動が続いている。

忠臣蔵検定や勉強会も

義士会の組織は、赤穂藩のあった兵庫県赤穂市、大石内蔵助が討ち入りの直前まで住んだ京都など全国のゆかりの地にある。

中央義士会は東京に事務局を置き、約2000人の会員がいる。主な活動は、菩提寺の泉岳寺で3月14日と12月14日に法要を営む。関係する文書を探して分析し、新たな事実を掘り起こす。その成果を、会報や著作を通じて発表している。主な業績としては、「赤穂義士史料」（1931年）、「未完新集



中央義士会の勉強会＝東京・新橋

赤穂義士史料」（1983年）などが挙げられる。勉強会を開催し、会員も史実を学んできた。また、正しい知識を一般にも広めたいと、2005年から忠臣蔵検定を実施している。

3級の検定試験の問題は次のようなものだ。
①「松之廊下事件から討ち入りまで、実際何年何ヶ月期間があったのでしょうか」

②「吉良邸討ち入り後、赤穂義士は2月4日に切腹することになりますが、何名の方が切腹したのでしょうか」

さて、皆さんの「忠臣蔵度」はどのくらいだったでしょうか。（答えは、①元禄15年は閏8月があるため、1年10カ月 ②寺坂吉右衛門が討ち入り後に離脱したため46名）

中には「四十七士で一番の酒飲みは」などと、ちよつとくだけた問題も。とにかく、赤穂義士のすべてを知ろうと探求し、愛していることが、問題からもうかがえる。

歴史の現場



白いなまこ壁で囲まれた吉良邸跡。都の指定旧跡となっている＝東京・両国

2014年10月。同会のメンバーらと東京・両国の吉良邸跡を訪ねた。JR両国駅から歩いてすぐのところ、吉良邸跡があった。マンシヨンや店舗などがある一角に、白いなまこ壁とのぼりが目につく。かつて



中央義士会の中島理事長(右)と富岡副理事長=東京・月島

は2500坪を超える広大な敷地だった吉良邸。地元有志が土地を購入して東京都に寄付し、現在は約30坪が都の指定旧跡として整備され、本所松坂町公園となっている。

黒塗りの門をくぐると、中には吉良上野介の像と主君を守るために亡くなった家来たちの碑がある。上野介の首を洗ったと言われる「みしるし洗いの井戸」が残



吉良上野介の首を洗ったと伝えられる「みしるし洗いの井戸」

されている。

中央義士会の中島理事長が「義士たちはここで3人1組になつて戦ったのです」と解説してくれた。実際に歴史が動いた場所に立つと、不思議な感慨がこみ上げてくる。

ここ以外にも討ち入り直前に義士が集合した場所や、侵入した吉良邸の表門や裏門のあったところなどにも移動。ていねいな説明を受けながら、討ち入りの日にタイムスリップしたような気分になつたことができた。

菩提寺と聖地

12月14日は、義士会にとって極めて大切な日だ。

討ち入りがあったこの日、義士の菩提寺でもある泉岳寺は、境内には露店が軒を連ね、人波が絶えない。線香の煙がもうもうと立ちこめ、主君浅野内匠頭と四十七士が眠る墓前で、大勢の人が手を合わせている。

一方、本堂では「赤穂義士追憶の集い」が営まれていた。参列しているのは、義士の子孫の方々や中央義士会のメンバーら。義士の子孫の会もあり、47人中約40人の子孫が分かっているという。読経が続く中、参



四十七士の墓で線香を手向ける参拝者



厳かに営まれた赤穂義士追悼の法要

列者が焼香し、義士の冥福を祈った。

泉岳寺から細い路地を歩いて5分ほどのところに、義士ゆかりの大切な場所がある。大石内蔵助ら17人が切腹した場所が、当時のままに保存されているのだ。

討ち入り後、義士たちは大名4家に預けられ、大石らは熊本藩細川家で幕府の処分を待った。元禄16年2月4日、細川家の下屋敷で切腹したが、当主の



赤穂義士の菩提寺・泉岳寺。
12月14日の討ち入りの日は大勢の人で賑わう



大石内蔵助ら17人が切腹した熊本藩下屋敷跡=東京・高輪

細川綱利は「十七人の勇士どもは、我が家の守り神である。切腹の場所は浄めることはない。そのまま長く保存するように」(中島康夫著「新大石内蔵助の生涯」より)と命じ、現在も残っているのだという。

聖地として、みだりに立ち入ることができないよう鍵が掛けられている。中央義士会が管理を任ざれており、同会の主催する史跡巡りなどに参加すれば、見学することもできる。

成果と課題

中島理事長は、毎週のように神田の古書店を訪ね、義士に関する文書や書籍を、私財を投じて買い求めている。これまでに集めた書籍類は2000冊を超えという。研究の合間を縫って、勉強会で教えたり、講演会で講師を務めたりして赤穂義士の実像を広めてきた。テレビなどの考証に意見を求められることも。いずれにせよ、24時間義士のことを考え続けてきたと言っても過言ではないだろう。

50年に及ぶ中島理事長の研究成果として、先ほど



切腹場所を示す中央義士会が設置した碑

引用した「新大石内蔵助の生涯」が2014年10月、出版された。16年前の「大石内蔵助の生涯」を改定し、「完全ノンフィクショナルストーリー」と銘打っている。

にいたのかを凶に落とし、当時の將軍徳川綱吉の母桂昌院が、義士の位牌を高野山の寺院に納めたことなど新発見、新事実を盛り込んだ。中央義士会の会員も、編集や校閲などで貢献した。

義士の切腹後1カ月で討ち入りの経緯が詳しく書き留められた「易水連袂録」の存在は知られていたが、作者は不明だった。この作者を、多角的な研究から旗本の天野弥五右衛門と推定したことも大きな



「新大石内蔵助の生涯」を出版した中島理事長

【ご案内】

勉強会のほか、討ち入り後に吉良邸跡から泉岳寺まで、義士が歩いたルートをたどるイベントなども実施している。

「新大石内蔵助の生涯」は、B6判、229ページ、1,800円。

本の販売や会員の申し込みなどは、
中央義士会事務局 ☎03-3534-0666

成果だ。
100年以上の歴史を誇る中央義士会だが、課題もあるという。それは会員の高齢化だ。裾野を広げるために、NPO法人忠臣蔵倶楽部を作るなど手を打ってきたが、十分にPRが行き届かないという。
「10年前に比べて忠臣蔵のドラマなどが少なくなり残念。人気がなくなってきたらどうだろうか」と嘆く中島理事長。「自分の命をなげうって人のために尽くす。義士の真の姿を知ってほしい」と訴えている。
赤穂義士は、日本人の求める理想の人間像なのだろう。だからこそ、ずっと関心が寄せられてきたのだ。中央義士会の活動に触れ、そう実感した。